

市町村振興協会たより

新市町村振興宝くじ(ハロウィンジャンボ及びクイックワン(9月発売回号))収益金について

新市町村振興宝くじ(ハロウィンジャンボ及びクイックワン(9月発売回号))の収益金については、全額を市町村に交付し、市町村の明るいまちづくりや住民福祉向上のための事業に活用されております。

■販売実績と収益金配分額

令和4年度のハロウィンジャンボ宝くじの販売実績は、前年度比2.21%減の約371億円となり、これに伴う山梨県への収益金配分額は、158,851千円(11.53%減)となりました。

前年度に比べ、販売実績が減少したことに加え、時効金(前年度の当せん金が引き換えされず、時効を迎えたもの)収入が大幅に減少したため、交付額が大きく減少しました。

また、インターネット専用全国自治宝くじ「クイックワン」(9月発売回号)の販売実績は、11億3千万円で、これに伴う山梨県への収益金配分額は419万円となり、両宝くじの収益金を合わせた163,048千円が、山梨県市町村交付金として、市町村に交付されました(表1参照)。

なお、市町村への交付に当たっては、均等割40%、人口割60%の配分基準により交付をしております。

※均等割は都道府県への配分に係る市町村数の算定に応じて算出。

■交付金の使途

交付金の使途については、地方財政法第32条に定める事業に充てることとされており、令和4年度の県内市町村の使途については、芸術・文化振興、環境の保全・創造、少子・高齢化対策等に活用されています(表2参照)。

■令和5年度ハロウィンジャンボ宝くじ発売について

令和5年度は、1等前後賞合わせて5億円のハロウィンジャンボ宝くじ(発売総額360億円・12ユニット)及び1等前後賞合わせて5,000万円のハロウィンジャンボミニ(発売総額150億円・5ユニット)が10月20日(金)まで同時発売されています。

当協会では、市町村にとって貴重な財源でありますハロウィンジャンボ宝くじの販売額の確保に向け、市町村ホームページの有料バナー広告への掲載や新聞、ラジオ等のメディアを活用した広報、また、地元プロスポーツチームのサッカー・ヴァンフォーレ甲府及びバスケットボール・山梨グリーンビーズと協力しPRを実施するなど、各種広報宣伝活動に努めて参りますので、宝くじの広報にご支援、ご協力をお願いいたします。

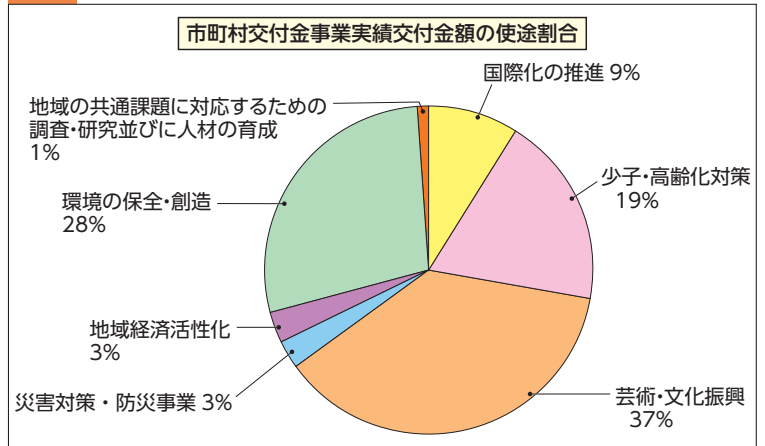
なお、宝くじの収益金は県内の販売実績等に応じて交付されるため、県内の売り場又は宝くじ公式サイトでお買い求めください。

表1 令和4年度新市町村振興宝くじ市町村交付金一覧表

単位：円

甲府市	25,343,000	市川三郷町	4,676,000
富士吉田市	7,392,000	早川町	1,904,000
都留市	5,518,000	身延町	3,962,000
大月市	4,491,000	南部町	2,974,000
韮崎市	5,283,000	富士川町	4,053,000
南アルプス市	11,854,000	昭和町	4,297,000
甲斐市	11,771,000	道志村	1,966,000
笛吹市	12,679,000	西桂町	2,260,000
北杜市	10,365,000	忍野村	2,887,000
上野原市	5,074,000	山中湖村	2,397,000
山梨市	6,939,000	鳴沢村	2,113,000
甲州市	6,432,000	富士河口湖町	6,057,000
中央市	6,671,000	小菅村	1,854,000
		丹波山村	1,836,000
市町村合計		163,048,000	

表2 令和4年度ハロウィンジャンボ宝くじ市町村交付金(163,048千円)の使途



発売期間：9月20日(水)～10月20日(金) 抽せん日：10月27日(金)

宝くじ
公式サイトは
こちらから!





石丸 みず穂さん

Mizuho Ishimaru

(小菅村 住民課 国民健康保険担当
主事)

「健全な国保経営をめざして」



住民課で国民健康保険を担当し2年目を迎えました。

小菅村では、昭和63年より35年間連続して国民健康保険税の収納率100%を維持しており、この財源が本村の国民健康保険事業の運営を支えています。

保険税の収納率を維持し続けるためには、被保険者の皆様に負担していただく保険税を可能な限り低く抑えることが重要ですが、本村は小規模自治体であるため、算定には被保険者一人当たりにかかる医療費の増減が大きく影響してきます。

医療費を抑えるために、国保データベースシステムを活用して、地域の健康課題の分析や被保険者に対する保健指導に結びつけています。また、令和5年度より保健師3人体制となり、住民の健康状態について従来よりも目の行き届きやすい体制が整いつつあります。小規模自治体ならではの“顔の見える関係”を活かした健康支援で、生活習慣病の重症化予防や、病気の早期発見・早期治療につなげることを目指します。

今年度は第2期データヘルス計画の策定年度でもあるので、保健師と連携しながら村の現状を把握・分析し、住民の健康づくりに努めていきます。

AFTER NOTES

編集後記

今号から、編集委員のご意見も踏まえ本誌の内容を一部リニューアルいたしました。これまで、発行毎、お一人の市町村長のまちづくり等紹介していた「巻頭随想」を拡充し、「市町村長リレー」と改め、市長、町村長それぞれお二人に執筆していただくこととしました。

また、新コーナーとして、本県に移住し新たな地域の担い手として、地域活性化や地域協力活動等行っている地域おこし隊員の取組について紹介する「地域おこし協力隊の活動」を連載することといたしました。

これからも市町村職員にとってよりよい情報誌になるよう内容の充実にも努めてまいりますので皆様からのご意見等お寄せいただければ幸いです。

最後に、特集をはじめ各コーナー等、本号の発行にあたり、ご多忙の中執筆いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

市町村職員情報誌「やまなし自治の風」編集委員会

役職名	団体名	補職名	氏名
委員長	山梨県市長会	事務局長	村松 広幸
副委員長	道 志 村	ふるさと振興課主任	中込 泰
委 員	甲 府 市	企画財務部総務課主任	小池賢太郎
	大 月 市	企画財政課主事補	柴村 亮斗
	韮 崎 市	総合政策課主任	伏見 美穂
	南アルプス市	政策推進課主事	塩澤 宏紀
	上 野 原 市	政策秘書課主査	東山 祐紀
	市川三郷町	政策推進課主幹	笠井 悟
	昭 和 町	総務課主任	渡辺 晃次
	忍 野 村	総務課主任	望月 景子
	丹 波 山 村	総務課主事	矢嶋 澄香
	山 梨 県	市町村課主任	松谷周一郎
山梨県町村会	振興課主事	小川 将毅	

